

彙報

第一四回総会および研究集会

木簡学会第一四回総会と研究集会は、一九九二年二月五、六日の両日、奈良国立文化財研究所平城宮跡資料館講堂において、会員約一七〇名が参加して開催された。会場には、平城宮第二三次・二三〇次、平城京左京三条三坊三坪、同右京三条三坊三坪、藤原宮六九一四次・七〇次、藤原京右京五条四坊、遠所遺跡の木簡のほか、研究集会の加藤報告に関連して、下野国府跡、但馬国府推定地出土の木簡が展示された。

◇二月五日（土）（午後一時～五時）

第一四回総会（議長 水野柳太郎氏）

開会の挨拶で狩野久会長から、会員問題のための検討小委員会を設けて佐藤宗諱氏に委員長を依頼したが、会員各位も委員に意見を寄せられた旨が述べられた。また、逝去された鈴木一男氏への哀悼の意が表せられた。続いて、議長に水野柳太郎氏を選出して議事に入った。

会務報告（館野和己委員）

会員新入会はこの一年ストップしたが、逝去一名、退会二名で現在二九一名であること、会員問題を中心に今後の会のあり方を検討する小委員会を設けたこと（委員長佐藤宗諱、委員鬼頭清明、和田萃、清水みき、館野和己、寺崎保広）、『木簡研究』の定期講読料支払いを銀行振込に一本化したこと、等の報告があった。

編集報告（和田萃委員）

『木簡研究』一四号の編集経過について説明があり、一三号よりも本文約三〇頁の増となり、その他の経費増加もあって、委員会で協議した結果、会誌代を四五〇〇円とする旨の報告があった。また、今後の編集体制についても検討の時期にきていることが述べられた。

会計・監査報告（館野和己委員・八木充監事）

会計担当の綾村委員の海外出張により、館野委員から一九九一年度の会計報告が行なわれた。引き続き八木監事から、会計が適正に行なわれている旨報告があった。その後、館野委員から一九九三年度の予算案につき説明がなされた。

以上の案件について、異議なく了承された。

役員改選について

次期（一九九三・九四年度）委員及び監事について、石上英一氏より推挙があり、拍手により承認された（一九八頁参照）。

研究集会（司会 平川南氏）

国・郡の行政と木簡―「国府跡」出土木簡の検討を中心として―

加藤友康氏

加藤氏の報告は、下野国府跡出土木簡を中心として、国衙（郡衙）の機構や政務・財政・儀礼体系を復原するものであり、下野国府跡の調査にあたった田熊清彦氏から遺構についての補足報告があった。加藤氏の報告内容は本号に掲載できた。

研究会の終了後、同会場で懇親会が行われた。

◇二月六日（日）（午前九時～午後三時）

研究会（司会 笹山晴生氏・栄原永遠男氏）

一九九二年全国出土の木簡

森 公章氏

平城宮跡第二二次出土木簡

館野和巳氏

藤原京右京五条四坊出土木簡

竹田政敬氏・和田 萃氏

森氏の報告は、一九九二年に全国で出土した五二の遺跡の概要と木簡の内容を説明したものであるが、その多くは本号に掲載できた。館野氏の報告は、木簡の内容などから遺構の性格として式部省・神祇官との関係が論じられた。竹田・和田両氏の報告は、下ッ道東側溝を中心とする遺構とそこから出土した木簡について、特に祭祀との関係に注目して説明された。

午後の討論では、二日間の報告に関して活発な質疑応答がなされた。最後に鬼頭清明委員から閉会の挨拶があった。

委員会報告

◇一九九二年二月五日（土）

於奈良国立文化財研究所

総会に先だって、会務報告、『木簡研究』第一四号の編集報告と頒価、一九九三年度予算案、総会・研究会の運営について検討が行なわれた。また編集・事務体制の整備について意見がかわされた。

◇一九九三年六月二日（水）

於奈良国立文化財研究所

会務に関しては幹事の補充（今津勝紀氏）、会計については一九九二年度決算報告及び監査報告、編集については『木簡研究』第一五号の編集計画について報告がなされ、それぞれ承認された。次に第一五回総会・研究会の日程・報告内容について検討を行なった。また、会員問題等に関する検討小委員会での議論の経過について報告があり、それをめぐって種々意見の交換がなされた。

◇一〇月二八日（木）

於奈良国立文化財研究所

会務報告・会計中間報告・『木簡研究』一五号の編集状況についての各報告があり、第一五回総会・研究会の日程・内容等について検討を行なった。また、会員問題について、小委員会の提案をもとに議論が交わされた。